

## 平成 29 年度 事業計画

(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

### 1. 基本方針

平成 29 年度、公益社団法人大阪フィルハーモニー協会は前身である関西交響楽団創設から 70 周年を迎えることとなります。新年度も大阪フィルハーモニー協会は、引き続き大阪フィルハーモニー交響楽団の運営を中心に、交響管弦楽その他音楽の普及振興を図るとともに青少年層の音楽鑑賞・演奏に関する指導を行い、古くから活動を行う大阪を代表するオーケストラとして、わが国の文化芸術の振興、大阪を中心とした地域活性化に貢献することを事業の基本方針といたします。

また、当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館を、市民の音楽活動の拠点として貸与する事業を通じて、地域の音楽文化の普及・振興に貢献するとともに、会館施設の一部を一般に賃貸する収益事業を通じて、交響楽団の運営等の公益事業の費用に充当いたします。

これらの事業の実施におきましては、収益的自立に向けた公演数・公演入場者数・会費収入の維持・拡大に向けた取組みを最優先の課題として取り組むことといたします。

楽団としての実力を維持・向上させるため、平成 29 年度より新たに尾高忠明マエストロをミュージック・アドバイザーとしてお招きしアンサンブル力の強化やサウンド作りに取り組むとともに、内外の著名指揮者を招いてフェスティバルホール(客席数 2,700 席)において定期演奏会を従来と同様、1 回 2 公演で開催することといたします。

また、日常の業務運営におきましては、引き続き公益社団法人として求められる内部統治(ガバナンス)の充実強化、法令遵守の徹底、情報の保存・管理と適正な公開、リスク管理の強化等に努めてまいります。

### 2. 事業基盤の維持・拡大に向けた平成 29 年度の展開

今後とも次の3本の重点課題を柱に、事業基盤の維持・拡大を進めてまいります。

#### (1)自立に向けた収益基盤の充実

平成 29 年度は文化庁巡回公演事業を継続して受託予定ではあるものの、企業等からの依頼公演の減少が見込まれることから、小編成の室内楽公演や大阪クラシック公演を除き、年間90公演の計画といたします。

<b>1. 自主公演 (34公演)</b>		
公演名	会場	公演数
定期演奏会	フェスティバルホール	20
マチネ・シンフォニー Vol.17・18	ザ・シンフォニーホール	2
ソワレ・シンフォニー Vol.9・10	ザ・シンフォニーホール	2
親子のためのオーケストラ体験教室	大阪フィルハーモニー会館	4
神戸特別演奏会	神戸国際会館こくさいホール	1
3大交響曲の夕べ	フェスティバルホール	1
京都特別演奏会	京都コンサートホール	1
第9シンフォニーの夕べ	フェスティバルホール	2
新春名曲コンサート	フェスティバルホール	1
<b>2. 依頼公演 (56公演)</b>		
企業・団体・学校・ホール等からの依頼公演		54公演
大阪クラシック(有料・オーケストラ公演)		2公演

今年度は冒頭で述べたとおり楽団創設70周年にあたるため、定期演奏会や自主公演はもちろんのこと、ホールと連携した演奏事業等も通じて、多くのお客さまに喜んでいただける魅力的なプログラムを準備いたしました。

定期演奏会では、70周年に相応しく、これまで大阪フィルと名演を繰り広げてきた内外の著名指揮者を中心に招き、その指揮者が最も得意とする曲目を中心に演奏会を企画しました。これにより、観客の皆さまにとっては、それぞれの指揮者で最も聴きたいプログラムに仕上がっていると思います。是非この機会に、昨年第500回を迎えた歴史ある定期演奏会に、より多くの方にお越し頂き、伝統ある“大フィルサウンド”を楽しんで頂ければと考えております。

また、自主演奏会は従来の「マチネ・シンフォニー」「ソワレ・シンフォニー」「3大交響曲の夕べ」「第9シンフォニーの夕べ」「新春名曲コンサート」を「名曲シリーズ」として再編し、普段クラシック音楽に敷居の高さを感じている、あるいは、あまり興味お持ちでない方に対しても、判りやすく、親しみやすく、魅力的なコンサートとして訴求していきたいと考えております。中でもソワレ・シンフォニーにつきましては、これまで普段クラシックコンサートに足を運び難い働き盛りの層を意識し、少し遅い時間にスタートし、短い時間で本格的なクラシックコンサートを楽しんで頂くコンサートとして企画してまいりましたが、回を重ねる中で「ちょっと物足りない」といった声も出てきたことから、開演時間・料金等も見直し、名実ともに本格的な「名曲クラシックコンサート」に改編し

ました。今年度も、クラシックファンのみならず幅広い層に人気のある名曲を用意し、新しいファン層開拓に繋がるコンサートにしていきたいと考えております。

また、今年度は「創立70周年特別企画」と銘打った『第55回大阪国際フェスティバル2017 バーンスタイン「ミサ」』に出演致します。「ミサ」はオーケストラ以外にもソリスト、合唱団、ロックバンド等総勢 200 名が出演するバーンスタインの傑作で、今回は依頼公演となっておりますが、弊楽団も企画の段階から参画してきたものです。日本では23年振りとなる上演で、大阪では初演となるプログラムですので、是非クラシックファンのみならず、多くの方に楽しんで頂けたらと思います。

以上のような演奏会の充実に加え、今年度は「創立70周年記念企画」として定期会員・正会員の会員数の維持・増加、あるいは一般向けの販売促進を企図した各種施策についても実施いたします。

年間定期会員向けには大阪フィル年間パンフレットのデザインを使ったチケット紛失防止にも役立つオリジナルチケットホルダーを作成、正会員向けには演奏会に来場される際も身に着けることが出来る「正会員章」のピンバッチを作成しました。正会員の皆さまには、演奏会会場での正会員同士の交流にも役立てて頂ければと考えております。

また、定期会員の方が新たに定期会員をご紹介頂くと「半額クーポン券」を2枚贈呈するキャンペーンや、公演チケットを3枚同時に購入すると2割引になる「3回セット割引券」の発売も行います。これらにより、大阪フィルのファンが新たなファン層を呼び込む、あるいは年に1～2回しか演奏会に来られなかった方が1つでも多くのコンサートに足を運んで頂けるようなきっかけになればと考えております。また、法人正会員の社員の皆さま向けに定期演奏会の3階席を活用した団体割引制度を創設いたしました。普段は仕事で忙しいサラリーマンの皆さまに廉価で会社の厚生行事等としてご利用いただくことが出来ますので、来場者の増加はもちろん、将来に向けた幅広いファン層創りに繋がっていくものと考えております。

なお、各種施策の実施に当たっては、プロボノ賛助会員の電通様のサポートもいただきながら進めております。引き続き、アンケート分析も含め外部の知見も取り入れながら、今後の各種マーケティング施策に繋げていきたいと考えております。

会費収入・寄付金収入の増収に向けては、平成 27 年度より新たに設置したパトロナージュ推進室のアドバイザーならびにアンバサダーの活動を引き続き効果的に展開するとともに、法人会員については会員会社の協力も得て各社社員の皆さまへの組織的な対応を充実させることで、新たなファン層拡大に取り組みます。

こうした活動を通じ、平成 29 年度は事業活動の一層の充実、収益の安定を図りたいと考えております。

## (2)オーケストラの体制整備

首席指揮者井上道義マエストロの後を受け、平成 29 年 4 月より尾高忠明マエストロにミュージック・アドバイザーにご就任頂きます。尾高忠明マエストロには公演の企画や演奏面に関する指導・助言の役割を委嘱し、大阪フィルの演奏活動全般を総括して頂き、平成 30 年度からは朝比奈隆マエストロ、大植英次マエストロに続く 3 代目の音楽監督に就任頂く予定としております。

また、昨年度「指揮者」となった角田鋼亮マエストロには引き続き同タイトルの委嘱を継続し、平成 30 年 1 月には定期演奏会にも登場頂く予定です。

楽団員の体制については、平成 29 年 2 月末現在 69 名のところ、中期的目標である 80 名体制の整備に向けて、引き続きオーディションによりトップレベルの優秀な人材の確保に努めてまいります。

コンサートマスターにつきましては、首席コンサートマスターとして田野倉雅秋氏を、首席客演コンサートマスターとして崔文洙氏との契約を継続するとともに、アシスタントコンサートマスターを選定し体制の強化を図ることを検討いたします。

## (3)大阪の都市魅力の向上に資する社会貢献活動の推進

過去 11 回の開催により、大阪の秋の風物詩として 5 万人規模の音楽の祭典として定着してきた「大阪クラシック」を、今年も 9 月に在阪オーケストラ・吹奏楽団等と共同で開催すべく、大阪クラシック実行委員会において協議・調整中を行う予定としております。

「大阪クラシック」の継続開催により、大阪の新しい都市魅力戦略の重点エリアでもある「御堂筋」「中之島」の活性化や、大阪の都市格向上への貢献を目指します。

次世代層に対するクラシック音楽普及の観点では、現在、定期演奏会の開催にあたってフェスティバルホールの 3 階席を学生席として 25 歳以下の学生の方々向けに 1,000 円という極めて安価にて販売をしております。平成 29 年度はこの 3 階学生席をより活用するため、小学生等のお子様が親子と一緒に公演を聴くことができる「親子チケット」の発売を行ってまいります。

また新たな社会貢献活動の一環として、海外から大阪府内へ留学されている外国人留学生の皆さまを定期演奏会に無料ご招待する活動を行っており、平成 29 年度についても継続実施してまいります。

## 3. 大阪フィルハーモニー会館の運営

当協会が保有する大阪フィルハーモニー会館のメインホール(600 m<sup>2</sup>)・市民スタジオ(90 m<sup>2</sup>1室、40 m<sup>2</sup>2室)を、市民の音楽活動や文化活動の拠点として貸与する事業を通

じ、地域の音楽普及・文化振興に貢献してまいります。

市民スタジオの貸室料金については、周辺の貸室環境等を精査し、出来るだけ地域の皆様に喜んでご利用頂けるよう平成 28 年 5 月に改定いたしました。この結果、スタジオの稼働率は向上しており、より一層の利用 PR を行うことにより稼働率の維持・向上に努め地域への貢献に寄与したいと考えております。

なお、竣工 20 年が経過した大阪フィルハーモニー会館建物については、公益法人の今後の活動基盤の健全化のため必要に応じて修繕等の検討を続けてまいります。

#### 4. 平成 29 年度に取り組むべきその他の重要課題

上記の他、外部との連携による事業拡大の重要性が高まっており、次のような項目を重要課題として取り組んでまいります。

##### (1)外部企業・団体との連携による公演来場者の増員

一昨年より、大阪フィルでは大阪府・市の観光事業の中核的存在である大阪観光局と協調して、国内外の大阪への来訪者に PR し、公演に来場頂くべく観光資料等の充実を図ってまいりました。平成 28 年度は新たに他の在阪 3 楽団とともに観光局ホームページと大阪フィルホームページ間のリンクを新設することとなりましたが、新年度は、他の外部団体も含め、更なる提携対象の拡大、内容の充実を検討してまいります。

##### (2)東京2020文化プログラムへの参加

現在、東京2020に向け、文化関係の事業実施について様々な検討が関係各所において進みつつあります。

大阪フィルとしましても、スポンサー様のご協力も得て、平成 29 年度中に文化プログラムの開催を企画中ですが、引き続き近隣の地方オーケストラとも連携して、その他各種文化プログラムの実施を検討してまいります。

以上

平成29年度収支予算書（正味財産増減計算書総括表）  
（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	平成29年度予算	平成28年度予算	増減
(単位：円)			
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	223,100,000	230,243,832	▲ 7,143,832
正会員受取会費	194,300,000	201,443,832	▲ 7,143,832
賛助会員受取会費	28,800,000	28,800,000	0
事業収益	522,361,000	523,842,000	▲ 1,481,000
公演収益	278,001,000	307,224,000	▲ 29,223,000
広告料収益	27,982,000	20,628,000	7,354,000
入場料収益	180,230,000	170,020,000	10,210,000
使用料収益	20,240,000	16,400,000	3,840,000
その他事業収益	15,908,000	9,570,000	6,338,000
受取補助金等	84,075,000	53,000,000	31,075,000
公的補助金収入	84,075,000	53,000,000	31,075,000
寄附金収入	33,000,000	39,000,000	▲ 6,000,000
一般寄付金収入	33,000,000	39,000,000	▲ 6,000,000
雑収益	1,000,000	1,000,000	0
雑収益	1,000,000	1,000,000	0
経常収益計	863,536,000	847,085,832	16,450,168
(2) 経常費用			
事業費	893,188,907	881,796,191	11,392,716
役員報酬	3,600,100	3,600,100	0
給料手当	371,136,650	357,550,713	13,585,937
賞与	0	0	0
法定福利費	54,714,501	53,166,972	1,547,529
旅費交通費	48,340,329	59,076,549	△ 10,736,220
出演費	176,450,000	168,490,000	7,960,000
音楽費	5,103,000	7,704,000	△ 2,601,000
文芸費	2,110,000	2,661,000	△ 551,000
諸謝金	1,121,000	830,000	291,000
会場費	63,380,000	63,816,000	△ 436,000
楽器運搬費	7,728,000	6,579,000	1,149,000
外注費	3,800,000	4,800,000	△ 1,000,000
宣伝費	6,068,000	5,000,000	1,068,000
印刷製本費	17,288,000	15,180,000	2,108,000
支払手数料	8,390,000	9,940,000	△ 1,550,000
消耗品費	2,096,125	2,421,250	△ 325,125
修繕費	1,467,800	1,767,800	△ 300,000
賃借料	2,278,237	2,278,237	0
保険料	900,908	1,017,256	△ 116,348
交際費	1,080,000	1,080,000	0
通信運搬費	3,873,100	4,235,000	△ 361,900
光熱水費	7,122,500	7,700,000	△ 577,500
委託費	7,297,535	8,735,759	△ 1,438,224
減価償却費	26,926,568	26,926,568	0
雑費	16,745,700	13,188,000	3,557,700
租税公課	30,294,958	31,110,590	△ 815,632
修繕引当金繰入額	4,678,000	0	4,678,000
退職給付費用	19,197,896	22,941,397	△ 3,743,501
管理費	8,328,853	7,896,289	432,564
役員報酬	1,542,900	1,542,900	0
給料手当	994,350	961,287	33,063
賞与	0	0	0
法定福利費	97,499	91,028	6,471
旅費交通費	345,671	416,451	△ 70,780
通信運搬費	150,900	165,000	△ 14,100
印刷製本費	0	0	0
支払手数料	0	0	0
消耗品費	73,875	78,750	△ 4,875
修繕費	32,200	32,200	0
賃借料	88,763	88,763	0
保険料	45,092	41,744	3,348
交際費	120,000	120,000	0
支払利息	950,000	750,000	200,000
光熱水費	277,500	300,000	△ 22,500
委託費	478,465	572,241	△ 93,776
減価償却費	1,853,432	1,853,432	0
雑費	612,300	462,000	150,300
租税公課	295,042	297,410	△ 2,368
修繕引当金繰入額	322,000	0	322,000
退職給付費用	48,864	123,083	△ 74,219
経常費用計	901,517,760	889,692,480	11,825,280
当期経常増減額	▲ 37,981,760	▲ 42,606,648	4,624,888
2. 経常外増減の部	0	0	0
(1) 経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
他会計振替額	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 37,981,760	▲ 42,606,648	4,624,888
一般正味財産期首残高	407,395,495	428,024,427	▲ 20,628,932
一般正味財産期末残高	369,413,735	385,417,779	▲ 16,004,044
II. 指定正味財産増減の部	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	369,413,735	385,417,779	▲ 16,004,044

(注1) 一般正味財産期首残高に関して、平成29年度は平成28年度決算見込み値を、平成28年度は平成27年度決算値を使用

(注2) 短期借入限度枠は300百万円とする

(単位:円)				
	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
I. 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
受取会費	215,237,847	0	7,862,153	223,100,000
正会員受取会費	186,437,847	0	7,862,153	194,300,000
賛助会員受取会費	28,800,000	0	0	28,800,000
事業収益	522,361,000	0	0	522,361,000
公演料収益	278,001,000	0	0	278,001,000
広告料収益	27,982,000	0	0	27,982,000
入場料収益	180,230,000	0	0	180,230,000
使用料収益	20,240,000	0	0	20,240,000
その他事業収益	15,908,000	0	0	15,908,000
受取補助金等	84,075,000	0	0	84,075,000
公的補助金収入	84,075,000	0	0	84,075,000
寄附金収入	33,000,000	0	0	33,000,000
一般寄付金収入	33,000,000	0	0	33,000,000
雑収益	533,300	0	466,700	1,000,000
雑収益	533,300	0	466,700	1,000,000
経常収益計	855,207,147	0	8,328,853	863,536,000
(2) 経常費用				
事業費	891,747,589	1,441,318	0	893,188,907
役員報酬	3,600,100			3,600,100
給料手当	371,103,505	33,145		371,136,650
賞与	0	0		0
法定福利費	54,711,251	3,250		54,714,501
旅費交通費	48,335,460	4,869		48,340,329
出演費	176,450,000			176,450,000
音楽費	5,103,000			5,103,000
文芸費	2,110,000			2,110,000
諸謝金	1,121,000			1,121,000
会場費	63,380,000			63,380,000
楽器運搬費	7,728,000	0		7,728,000
外注費	3,800,000			3,800,000
宣伝費	6,068,000			6,068,000
印刷製本費	17,288,000			17,288,000
支払手数料	8,390,000			8,390,000
消耗品費	2,094,943	1,182		2,096,125
修繕費	1,450,350	17,450		1,467,800
賃借料	2,276,817	1,420		2,278,237
保険料	885,901	15,007		900,908
交際費	1,080,000			1,080,000
通信運搬費	3,870,686	2,414		3,873,100
光熱水料費	7,118,060	4,440		7,122,500
委託費	7,129,329	168,206		7,297,535
減価償却費	25,922,146	1,004,422		26,926,568
雑費	16,735,903	9,797		16,745,700
租税公課	30,294,958	0		30,294,958
修繕引当金繰入額	4,503,500	174,500		4,678,000
退職給付費用	19,196,680	1,216		19,197,896
				0
管理費	0	0	8,328,853	8,328,853
役員報酬			1,542,900	1,542,900
給料手当			994,350	994,350
賞与			0	0
法定福利費			97,499	97,499
旅費交通費			345,671	345,671
通信運搬費			150,900	150,900
印刷製本費				0
支払手数料				0
消耗品費			73,875	73,875
修繕費			32,200	32,200
賃借料			88,763	88,763
保険料			45,092	45,092
交際費			120,000	120,000
支払利息			950,000	950,000
光熱水料費			277,500	277,500
委託費			478,465	478,465
減価償却費			1,853,432	1,853,432
雑費			612,300	612,300
租税公課			295,042	295,042
修繕引当金繰入額			322,000	322,000
退職給付費用			48,864	48,864
経常費用計	891,747,589	1,441,318	8,328,853	901,517,760
当期経常増減額	▲ 36,540,442	▲ 1,441,318	0	▲ 37,981,760
2. 経常外増減の部				0
(1) 経常外収益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				0
他会計振替額			0	0
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 36,540,442	▲ 1,441,318	0	▲ 37,981,760
一般正味財産期首残高	346,390,261	19,787,906	41,217,328	407,395,495
一般正味財産期末残高	309,849,819	18,346,588	41,217,328	369,413,735
II. 指定正味財産増減の部				0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III. 正味財産期末残高	309,849,819	18,346,588	41,217,328	369,413,735